

# グローバル化社会での母語（日本語）による研究

小野 澤 隆

健康プロデュース学部長

本学の教育体制の再編により健康系の学部にも所属することになって5年余り過ぎましたが、いつも思うことは、赴任した学部に関わった研究テーマにも取り組んでみようということです。私の研究分野である英学史は英米文学、英米思想、英語教育など多角的であり、英米の近代科学とも本学部との接点があります。4年前には明治12年(1879)に浜松で出版された医学翻訳書『七科約説』及びその周辺について調査を行いました。同書は日本で最初の総合的な医学翻訳書と言ってよいと思います。原著は *Conspectus of the Medical Science* で、著者は米人ヘンリー・ハーツホーン (Henry Hartshorne) という公衆衛生学の専門家です。日本の英学史において欧米医学の導入過程は重要な分野ですが、私はこれまで足を踏み入れることがありませんでしたが、そのきっかけを与えていただいたのは現在所属している学部のお陰です。

『七科約説』の内容は解剖、生理、化学、薬物、内科、外科、産科の七科についての解説で、現代医学に通ずるほど翻訳の完成度が高いことは強調しておきます。英語で書かれた概念や医学用語を漢語で表現していますが、日本人が漢学と蘭学を修めてきた伝統と知識の集積によって可能であったことは想像に難くありません。それにしても英語という異言語と格闘して短期間で高度な翻訳作業を成し遂げたことは驚きです。このように日本人は異なる世界の文化・文明を日本語化することで自分のものとしたことは特筆すべきことでしょう。

日本人は遅くとも弥生時代以降、ほとんどの時代において、外界から文化・文明を積極的に取り入れ、自分たちの持っている文化・文明と融合させながら社会を発展させてきた経験を持っています。これは日本に限ったことではなく、現在に至るまで途絶えることなく地球のいたるところで起こっている現象に違いありません。西欧はギリシャ、ローマ、イスラムの文化・文明の刺激を受け、米国は第二次大戦後に西欧の遺産を応用して米国流科学を開花させました。日本人はサルマネが得意、日本はコピー文化だと揶揄されていた時期もありましたが、近年では毎年のようにノーベル賞やそれに相当する賞を受賞していることから明らかに、世界に対して様々な形で貢献しています。

ところで、日本が世界に向けて発信している研究の言語は圧倒的に英語によるものです。科学の分野では国内外を問わず英語で論文を書くことは珍しくはありません。確かに英語が世界で汎用性のある言語として機能することで、多くの人々が叡智を共有できる利便性がありますが、英語を母語としない日本人にとっては大きな負担です。特に日本語は英語とかけ離れた言語ですので、日本語の繊細な感性・思考をどこまで英語に反映できるかという問題も含まれます。それでも日本語が母語である多くの研究者は、研究成果を多大な労力を駆使して英語で発信しています。しかし、ここで重要なことは、表現形式は英語であっても研究の原点は日本語で何かを感じとり、日本語で思索しているということです。

日本語ではなく英語で最初から研究に取り組んだ方が手取り早いと考えるかもしれませんが、英語が母語

でなければ英語での感性と思考を育むことは無理でしょう。またそんなことをすれば研究の質も効率も低下することは容易に想像がつきます。それよりせつかく日本語を母語として生まれ育ったのであるならば、日本語に内在する個別性を活かさない手はありません。日本の風土や自然から醸し出された日本語の特性を紹介することは、他の文化・文明を背景とする研究とは違った新たな価値を創造する原動力になると思います。

私は研究の終局的な目的は世界の平和に寄与することだと思っています。その意味で言えば、研究も様々な言語によってなされるのが本来の姿ではないでしょうか。しかし英語に偏った言語環境はしばらくの間は揺るがないでしょうし、ここまで英語が拡散してしまった現実の前では英語から離脱することは不可能なことかも知れません。そうであるならば現実には現実として受けとめ、少しでも良い環境に近づけることが大切であり、まず日本人は日本語で自由に大胆に研究を進め、日本語で論文を書くことに全力を尽くすことを当たり前とするべきでしょう。そしてその研究が英語に置き換えられたとしても、研究過程において日本語によって感性と思考が十分熟しているならば、良質な成果を世界に向けて伝えることは可能です。

世界規模で所得格差の是正、機会の平等といった人権に関わる問題意識は広がりつつありますが、残念ながら個々の言語の尊厳についてはあまり語られることはありません。日本語よりも英語が使えることの方が重要であるような意識がいつの間にか日本人に沁みついてしまい、そのことに気づくこともないかのようです。そのような歪みが是正され、いつの日か英語を含む多言語が機能する世界が見られればと思います。

英語や外国語を学ぶことで新たな文化・文明との出会いがあり、よいことばかりではないかもしれませんが多くの教えを得ることができ、その出会いによって何かこれまでになかったものが創造され、人類の財産として共有することが期待されます。それを実現可能ならしめるためにも母語（日本語）は大切であると確信します。